6．重要な債務負担行為

当事業年度に契約を締結し、翌期以降に支払いが発生する重要なものは以下のとおりである。

（単位：千円）

契約名称	契約の相手方	契約金額	翌期以降支払金額	
			一年以内	一年超
三重大学環境情報科学館新営その他工事	鹿島建設株式会社中部支店	299,040	179,424	—
三重大学環境情報科学館新営電気設備工事	旭日電気工業株式会社名古屋支社	51,450	30,870	—
三重大学環境情報科学館新営機械設備工事	岡田工業株式会社	78,750	47,250	—
三重大学女子学生寄宿舎改修工事	株式会社森川塗建	36,750	22,050	—
三重大学女子学生寄宿舎等改修電気設備工事	横山総合設備株式会社	23,940	23,940	—
三重大学女子学生寄宿舎等改修機械設備工事	太洋冷暖房設備株式会社	33,600	20,160	—
生命維持管理装置一式	ＣＴＭ株式会社	344,925	344,925	—
生ゴミ処理機一式	株式会社マルゼン三重営業所	22,995	22,995	—
合計		891,450	691,614	—

7．金融商品の時価等

1．金融商品の状況に関する事項

当法人は、資金運用については預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定し、資金調達については国立大学財務・経営センターからの借入れに限定している。

資金運用にあたっては国立大学法人法第35条が準用する独立行政法人通則法第47条の規定に基づき、公債のみを保有しており株式等は保有していない。また、未収附属病院収入は、債権管理細則に沿ってリスク管理を行っている。

国立大学財務・経営センター債務負担金及び長期借入金の使途は附属病院の整備資金であり、文部科学大臣の事前承認に基づいて借入れを実施している。

2．金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額（＊１）	時価（＊１）	差額（＊１）
⑴　投資有価証券及び有価証券			
満期保有目的の債券	399,962	399,580	△ 382
⑵　現金及び預金	9,328,683	9,328,683	—
⑶　未収附属病院収入	2,857,446		
徴収不能引当金（＊２）	△ 18,847		
	2,838,598	2,838,598	—
⑷　国立大学財務・経営センター債務負担金	(4,079,308)	(4,513,887)	(434,579)
⑸　長期借入金	(15,523,365)	(15,223,354)	(△ 300,010)
⑹　未払金	(7,883,930)	(7,883,930)	—

（＊１）　負債に計上されているものについては（　）で示している。

（＊２）　未収附属病院収入に対する徴収不能引当金を控除している。

（注１）　金融商品の時価の算定方法

⑴　投資有価証券及び有価証券

これらの時価について、取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっている。なお、有価証券の中に含まれる譲渡性預金については、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

⑵　現金及び預金、並びに⑶　未収附属病院収入

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。なお、未収附属病院収入のうち貸倒懸念債権等については、回収見込額等により、時価を算定している。

⑷　国立大学財務・経営センター債務負担金、並びに⑸　長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法により算定している。

⑹　未払金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

8．賃貸等不動産の時価等の開示

賃貸等不動産の総額に重要性がないため、記載を省略している。

9．資産除去債務

⑴　当該資産除去債務の概要

附属病院建物等の解体時におけるアスベスト除去費用等につき資産除去債務を計上している。

⑵　当該資産除去債務の金額の算定方法

資産除去債務の見積りにあたり、取得時からの使用見込期間を30年から50年と見積り、割引率は使用見込期間を勘案し、使用見込期間に見合う国債の流通利回りを採用しており、2.266％から2.304％としている。

⑶　当事業年度末における当該資産除去債務の総額の増減

当事業年度における資産除去債務の残高の推移は次のとおりである。

前事業年度末残高（注）	94,378千円
時の経過による調整額	1,488千円
当事業年度末残高	95,867千円

㈱　当事業年度より、改訂後の「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」を適用したことによる期首時点の残高である。

10．固定資産の減損

翌事業年度以降の特定の日以後使用しないという決定をした固定資産

⑴　使用しないという決定を行った固定資産の用途、種類、場所などの概要

用途	種類	場所
診療	建物	医学部附属病院　病院本館　東病棟（三重県津市江戸橋２―174）
診療	建物	医学部附属病院　霊安棟（三重県津市江戸橋２―174）
診療	建物	医学部附属病院　機械棟（三重県津市江戸橋２―174）